

世界の主な地震

令和元年（2019年）5月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

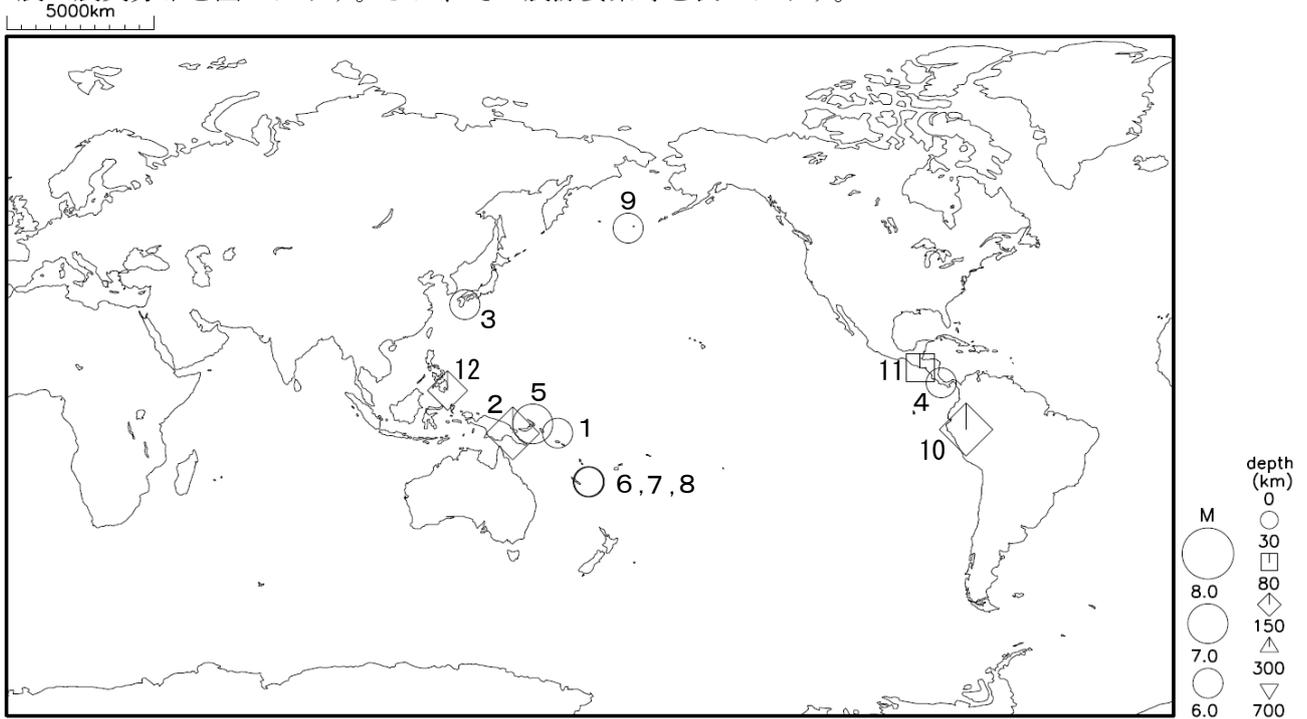


図1 令和元年（2019年）5月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

表1 令和元年（2019年）5月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	03日16時25分	S06° 55.6′	E160° 08.3′	10			6.2	ブーゲンビルーソロモン諸島			
2	07日06時19分	S06° 58.4′	E146° 27.0′	146			(7.1)	バブアニューギニア、ニューギニア東部		○	○
3	10日08時48分	N31° 48.0′	E131° 58.4′	25		6.3	(6.2)	日向灘	軽傷者2人		
4	13日04時24分	N08° 36.5′	W082° 50.3′	19			6.1	パナマーコスタリカ国境			
5	14日21時58分	S04° 04.8′	E152° 34.1′	10			(7.6)	バブアニューギニア、ニューブリテン		○	○
6	19日10時23分	S21° 40.2′	E169° 48.2′	20			6.3	ローヤリティー諸島南東方			
7	19日23時27分	S21° 44.3′	E169° 34.4′	20			6.0	ローヤリティー諸島南東方			
8	19日23時56分	S21° 36.4′	E169° 28.1′	20			6.3	ローヤリティー諸島南東方			
9	23日17時45分	N51° 21.7′	W178° 19.8′	28			6.1	アリューシャン列島アンドリアノフ諸島			
10	26日16時41分	S05° 48.4′	W075° 15.8′	123			(7.9)	ペルー北部	死者2人など		○
11	30日18時03分	N13° 14.5′	W089° 16.3′	65			6.6	エルサルバドル			
12	31日19時12分	N06° 15.8′	E126° 33.1′	90			6.1	フィリピン諸島、ミンダナオ			

- 震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder” (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2019年5月31日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mjの欄に記載したマグニチュード、Mwの欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
- 被害状況は、出典のないものはOCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs : 国連人道問題調整事務所)、国内は、総務省消防庁による。
- 地震発生時刻は日本時間 [日本時間=協定世界時+9時間] である。
- 「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (※) を発表したことを表す。
- ※気象庁ホームページの「国際的な津波監視体制」 (<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/nwpta.html>) 参照。
- 「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
- 深さに「*」を付したものは、気象庁によるCMT解のセントロイドの深さを表す。

5月7日 パプアニューギニア、ニューギニア東部の地震

2019年5月7日06時19分（日本時間、以下同じ）にパプアニューギニア、ニューギニア東部の深さ146kmでMw7.1の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、北北東-南南西方向に張力軸を持つ型である。

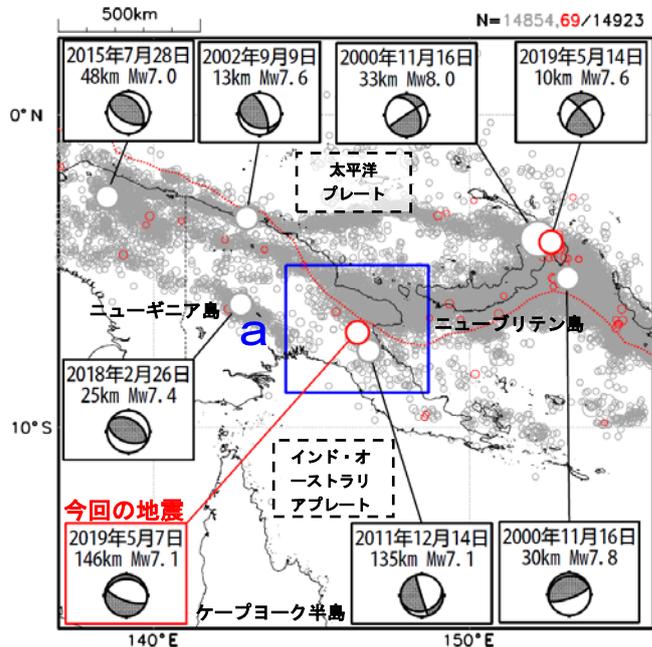
気象庁は、この地震に対して、同日06時46分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生している。また、M7.0以上の地震では、2011年12月14日にMw7.1の地震が発生した。

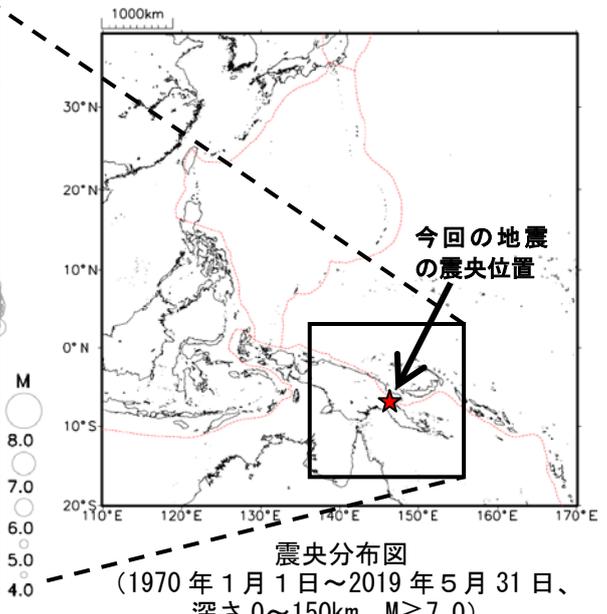
領域aに隣接する地域でもM7.0を超える地震が幾度か発生している。最近では、2018年2月26日にMw7.4の地震が発生し、多数の死傷者と物的被害が生じた。

1970年以降の活動をみると、今回の地震が発生した地域ではM7.0以上の地震が頻繁に発生しており、1996年2月17日にはMw8.2の地震が発生し、父島で104cm、串本（和歌山県）で96cmなど、日本でも津波を観測した。

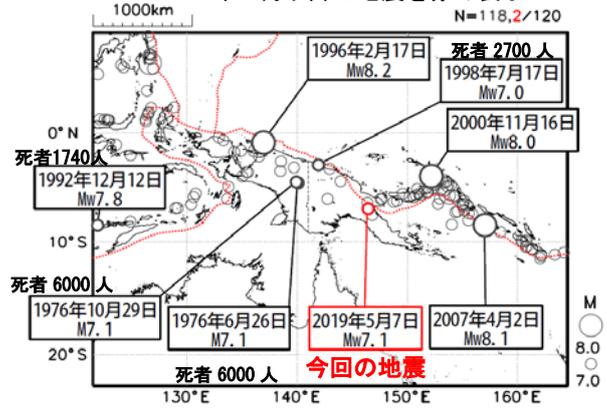
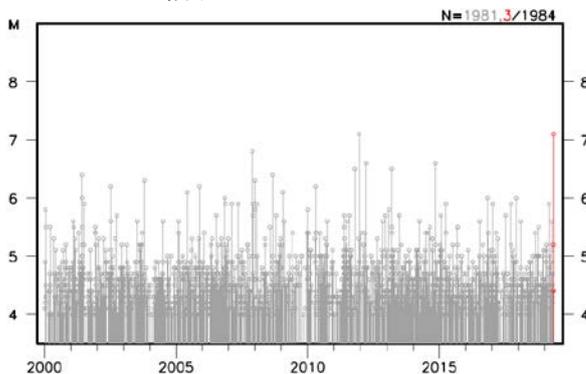
震央分布図
(2000年1月1日~2019年5月31日、深さ0~150km、M≥4.0)
2019年5月以降の地震を赤く表示



■■■■■ プレート境界の位置



領域a内のM-T図



今回の地震、M8.0以上の地震、及び死者1000人以上の地震に吹き出しを付けた。

※本資料中、震央分布図に吹き出しの注釈がある2009年4月以降の地震（今回の地震を含む）の発震機構及びMwは気象庁、その他の地震の発震機構はGlobal CMTによる。また、1970年以降の地震のM及び震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2019年5月31日現在）。プレート境界の位置はBird（2003）より引用。2018年2月26日のMw7.4の地震の被害はOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による。その他の過去の被害は、宇津及び国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センターによる「世界の被害地震の表」による。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

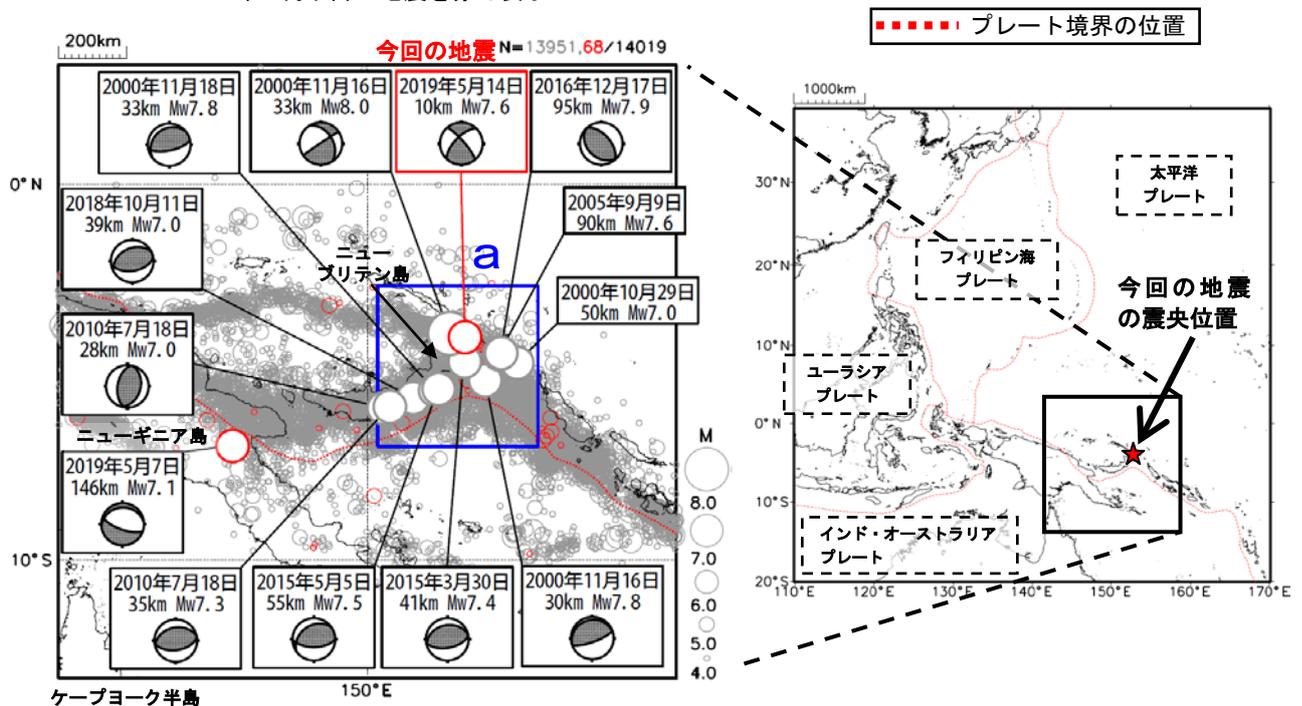
5月14日 パプアニューギニア、ニューブリテンの地震

2019年5月14日21時58分（日本時間、以下同じ）にパプアニューギニア、ニューブリテンの深さ10kmでMw7.6の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

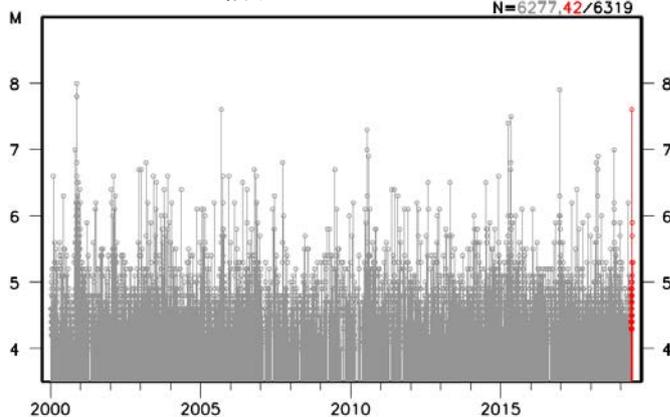
気象庁は、この地震に対して、遠地地震に関する情報を同日22時25分（日本への津波の有無については現在調査中）、翌15日00時10分（津波の心配なし）に発表した。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では、M7.0以上の地震が度々発生するなど活発な地震活動がみられる。被害を伴う地震も発生しており、2000年11月16日にMw8.0、Mw7.8、11月18日にMw7.8の地震が連続して発生し、11月16日のMw8.0の地震では、津波が観測され、死者2人のほか、住家に多数の被害を生じた。

震央分布図
(2000年1月1日～2019年5月31日、深さ0～150km、 $M \geq 4.0$)
2019年5月以降の地震を赤く表示



領域a内のM-T図 N=6277.42/6319



※本資料中、震央分布図に吹き出しの注釈がある2009年4月以降の地震（今回の地震を含む）の発震機構及びMwは気象庁、その他の地震の発震機構はGlobal CMTによる。また、2000年以降の地震のM及び震源要素は米国地質調査所 (USGS) による (2019年5月31日現在)。プレート境界の位置はBird (2003) より引用。過去の被害は、宇津及び国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センターによる「世界の被害地震の表」による。

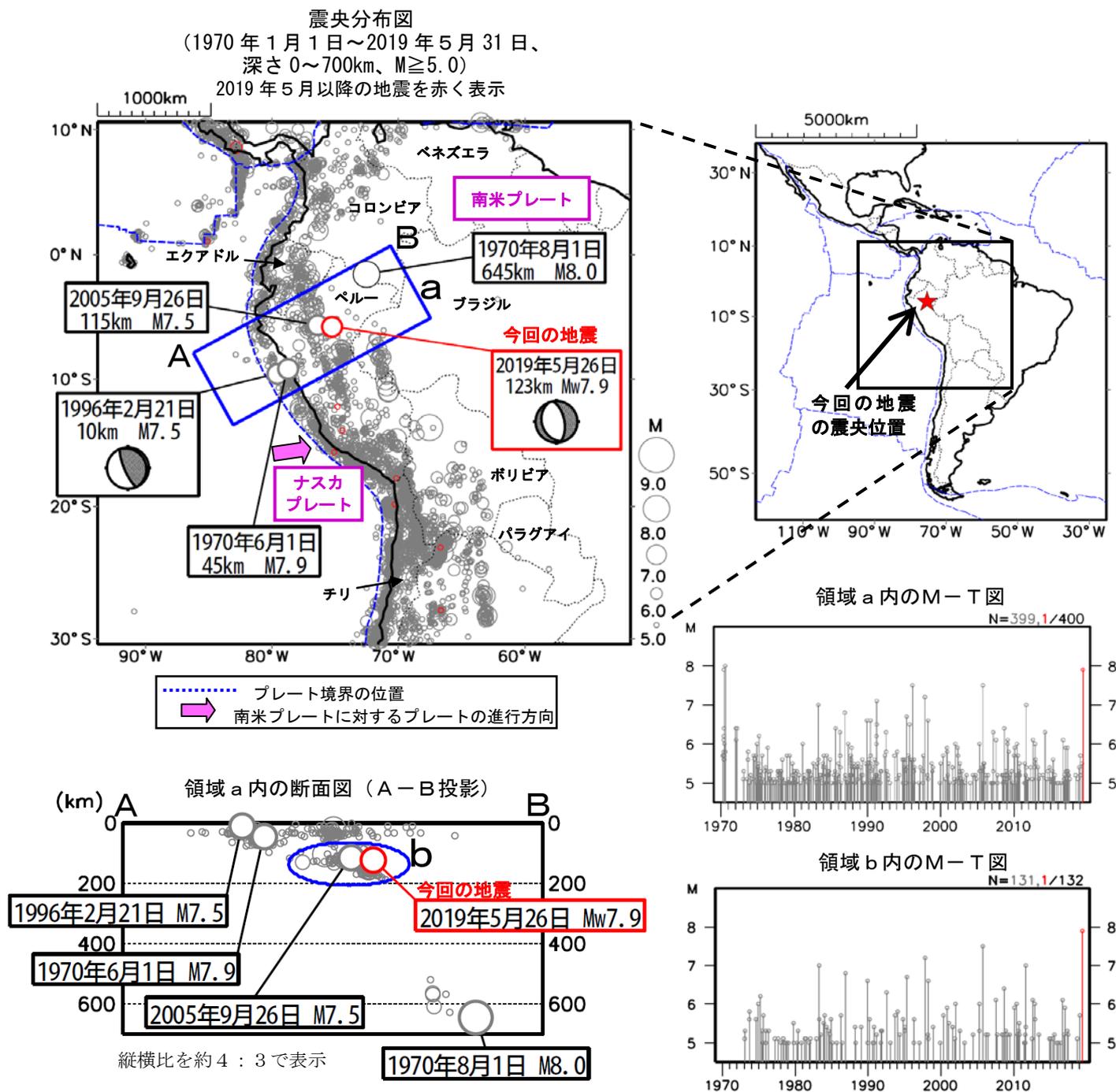
*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

5月26日 ペルー北部の地震

2019年5月26日16時41分（日本時間、以下同じ）にペルー北部の深さ123kmでMw7.9の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、ナスカプレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、南米プレートの下に沈み込むナスカプレート内部で発生した地震である。この地震により、死者2人、負傷者15人等の被害があった（5月30日17時現在）。

気象庁は、この地震に対して、同日17時11分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。

1970年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M7.0以上の地震が時々発生しており、2005年9月26日の地震（M7.5、深さ115km）では死者5人の被害があった。今回の地震の震央付近（領域a）では、M7.5以上の地震が1970年以降5回発生しているが、そのうち1970年6月1日に発生した地震（M7.9、深さ45km）では、死者66794人等の被害が生じた。



※本資料中、今回の地震の発震機構及びMwは気象庁、その他の地震の発震機構はGlobal CMTによる。また、1970年以降の地震のM及び震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2019年5月31日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）より引用。1970年6月1日の被害は宇津の「世界の被害地震の表」、その他の地震の被害はOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.